



とよろうつうしん

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校
令和4年度
学校通信 第1号 No.1
令和4年6月16日発行

校長 森山 剛



エンジンがかかってきました!

新年度が始まり、2か月以上が過ぎました。4月当初は、新しい学部や学年に戸惑うこともありましたが、学校生活に次第に慣れてきて、どんどんエンジンがかかってきました。子どもたちにとっての1日1日は、とてもボリュームがあり、どの日も貴重で、輝いています。そんな毎日、教職員一丸となって、精一杯支えています。エンジン全開の様子を少し紹介します。

1 自然体験活動

去る6月2日(木)~3日(金)の1泊2日で、自然体験活動を実施しました。当日を迎えるまで、新型コロナの状況を注視しながら、また、感染対策を十分に講じた上で、何とか無事に実施できました。保護者の方々には準備から片付けまで、大変お世話になりました。ご協力いただきまして、感謝申し上げます。また、宿泊でお世話になった但馬長寿の郷に加え、日中活動でお世話になった生野銀山、ヨーデルの森、植村直己冒険館、イオン和田山店、はさまじ里山の森公園、道の駅神鍋高原等の関係箇所には様々な配慮をいただき、ありがとうございました。おかげをもちまして、小学部・中学部の児童生徒は、有意義な自然体験ができ、かけがえのない思い出ができました。ありがとうございました。



2 プール・グラウンド

一昨年度に改修されましたプールが、いよいよ今年度も稼働いたします。5月から、職員が掃除や点検、水質チェック等の準備を行って、いよいよ6月16日(木)がプール開きの予定です。保護者の方々には、入水に関する健康チェックや、水着やタオル等のご準備等でお世話になります。子どもたちがとても楽しみにしていますので、なにとぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。また、冬の間、雪に閉ざされ、荒れていましたグラウンドについても、5月に地面整備を行いました。9月には運動会も予定されています。新型コロナの感染状況を注視しながらではありますが、プールも運動会も子どもたちにとって大事な学習活動です。感染対策を十分に講じた上で、できる限り子どもたちの教育を止めずに、健やかな育ちを支えていきたいと願っています。



※裏面へ

支援教育部の紹介

支援教育部は、教育相談や通級指導教室で、地域の子どもたちや在籍校園への支援を行っています。聞こえに関する相談や通級指導教室は聴能部と共に支援にあたっています。

保育相談…聴覚に障害のある0～5歳のお子さんとその保護者が定期的に来校されています。安定した親子関係を育てるため、通じ合うコミュニケーションを大切にしたり、関わり方を一緒に考えています。



通級指導教室「あおぞらルーム」…小・中学校の通常学級で学んでいる子どもたちが、自立活動の内容（難聴、発音の指導）を学習しています。難聴通級では、よりよい補聴器の活用をめざしたり、補聴器の保守管理の仕方を学んだりしています。



高校通級の協力校…高校に出向き、通級担当の先生から発達障害に関する相談を受けて一緒に考えています。

啓発活動…聴覚障害児の理解を深め、配慮や支援の方法を知ってもらうため、保健師や地域の先生むけの研修会を行っています。

聞こえやことば、就学におけるご相談等、保護者の方や先生方と一緒に考えていきたいと思っていますので、支援教育部までご連絡ください。



お知らせ

7/28 難聴児保護者交流会（聴覚障害部門の保護者が対象）を実施します。

幼稚部

今年度の幼稚部は、5歳児2名（男児1名、女児1名）で、毎日元気いっぱい過ごしています。紫色の名札（年長）の2人は、給食やカバンの準備・片づけ等、‘自分のことは自分です’といった姿がよく見られます。また、当番活動などクラスのことにも積極的に取り組もうとする姿も見られ、頼もしさを感じます。

長引くコロナ禍において様々な活動が制限されていますが、保護者の皆様のご協力も得ながら、こまめな手洗い・消毒、黙食など、幼児なりにできる感染予防対策に取り組んでいます。

幼稚部では、花や野菜、メダカやカブトムシなどの色々な生き物を育てています。毎日お世話をする中で生き物の成長や変化に気づいたり、「なんでだろう?」といった思いをたくさん感じたりしています。そして、気づいたことや感じたことをみんなで話したり、一緒に考えたりしています。友だちと一緒に活動をする中で‘伝える’‘伝わる’喜びや楽しさを感じ、お互い育ち合っしてほしいと思います。

